

知られざる神に

シリーズ・パウロ 第20回

使徒言行録17章16～34節

文化の都アテネに来たパウロ

- フィリピでの投獄事件
- テサロニケでは多くの異邦人が信仰に入ったが、ユダヤ人に妨害された
- ベレアでも宣教は成功したが、テサロニケからユダヤ人が邪魔しに来た
- シラスとテモテがベレアに残り、パウロー人をアテネに行かせた



アテネでのパウロ

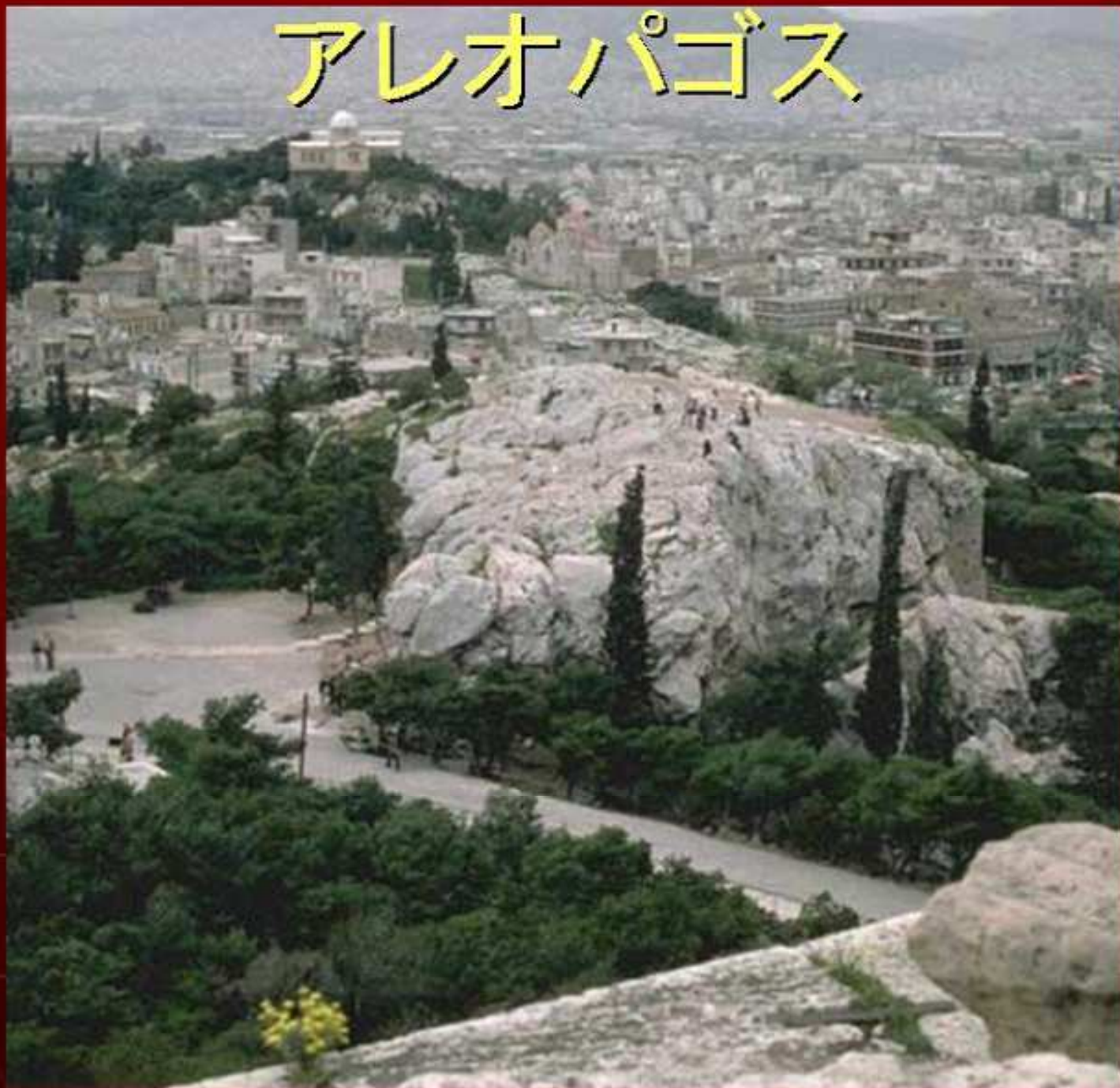
- アテネはギリシャ文明の中心地で、学問や芸能、宗教など文化豊かな都であった
- パウロは町に偶像が満ちているのを見て憤慨した(3万以上あった?)
- 会堂ではユダヤ人や改宗者、広場では居合わせた人々と毎日論じ合った
 - ・ その中にエピクロス派とストア派の哲学者がいた
 - ・ エ) 快楽主義 ス) 禁欲主義
- アレオパゴス議会で話すことに

アレオパゴス



パルテノン神殿

アレオパゴス





パウロが説教した場所

知られざる神に

パウロは、アレオパゴスの真ん中に立って言った。「アテネの皆さん、あらゆる点においてあなたがたが信仰のあつい方であることを、わたしは認めます。道を歩きながら、あなたがたが拝むいろいろなものを見ていると、『知られざる神に』と刻まれている祭壇さえ見つけたからです。それで、あなたがたが知らずに拝んでいるもの、それをわたしはお知らせしましょう。世界とその中の万物とを造られた神が、その方です。この神は天地の主ですから、手で造った神殿などにはお住みになりません。

また、何か足りないことでもあるかのように、
人の手によって仕えてもらう必要もありません。
すべての人に命と息と、その他すべてのものを
与えてくださるのは、この神だからです。神は、
一人の人からすべての民族を造り出して、地上
の至るところに住まわせ、季節を決め、彼らの
居住地の境界をお決めになりました。これは、
人に神を求めさせるためであり、また、彼らが
探し求めさえすれば、神を見いだすことができる
ようにということなのです。実際、神はわたし
たち一人一人から遠く離れてはおられません。

皆さんのうちのある詩人たちも、／『我らは神の中に生き、動き、存在する』／『我らもその子孫である』と、／言っているとおりです。

わたしたちは神の子孫なのですから、神である方を、人間の技や考えで造った金、銀、石などの像と同じものと考えてはなりません。さて、神はこのような無知な時代を、大目に見てくださいましたが、今はどこにいても皆悔い改めるようにと、命じておられます。それは、先にお選びになった一人の方によって、この世を正しく裁く日をお決めになったからです。神はこの方を死者の中から復活させて、すべての人にそのことの確証をお与えになったのです。」

創造主

- 人間の手で作った神殿や像には住まない
 - ・ 人間を造った方が人間の造った物に住むはずはない
- 人間に仕えてもらう必要はない
 - ・ 人間が神を助けたり守ったりする必要はない
- 全ての命と息とはこの神から与えられている
 - ・ 神はすべての生命を生み出し、生かしておられる
 - ・ 人間が生きて行くために必要な物は神から与えられている

出会うことのできる神

- 人間は住む場所と時代が与えられている
- 求めるならまことの神を見出すことができる
 - ・ すべての人間は神を求めている
 - ・ 神を選ぶのではなく神を求める
- 神は私たちの近くにおられる
 - ・ 神のところに行く必要はない
- 人間は神と繋がっている
 - ・ 『我らは神の中に生き、動き、存在する』／『我らもその子孫である』(アトラスの誌)

キリストによる救いと警告

- 「悔い改め」を求めておられる神
 - ・ 神に対する無知の時代は終わった
 - ・ 誰一人神の前に正しい人はいない
- 「この世を正しく裁く日」が決められた
 - ・ 「先にお選びになった一人の方」によって
 - ・ キリストの十字架は全ての人に救いをもたらした
- キリストの死と復活がその証拠である
 - ・ 多くの人をあざ笑ったが何人かは信じた

もしパウロが日本に来たら

- 高度な文明と溢れる情報に驚く
- しかし、偶像や迷信、占いや宗教に人々が縛られていることにもっと驚く
- 私たちを創造し、愛し、命と自由を与えられるまことの神を伝えるだろう